

10 職業・家庭（職業）（家庭）

○内容の構造

- ・『職業・家庭科（職業分野）及び職業科』と『職業・家庭科（家庭分野）及び家庭科』の2つに分けて整理を行いました。
- ・ A 職業生活のA 働くことの意義については、
 - （ア） 知識及び技能
 - （イ） 思考力，判断力，表現力等
 - （ウ） 学びに向かう力，人間性等
 の3つで示されています。
- ・ それ以外の内容については、
 - （ア） 知識及び技能
 - （イ） 思考力，判断力，表現力等
 の2つで示されています。
- ・ 中学部，高等部の各1段階目に当たる中1段階と高1段階の指導内容は，前段階である小学部の生活科や中学部職業・家庭科との関連を踏まえることとされています。また2段階目に当たる中2段階と高2段階は，前の段階を踏まえた発展的な学習内容になっています。

○表の見方

- ・ 職業・家庭科の表は，見やすく使いやすくなるよう，次のようにまとめました。
 - 「・」： 内容
 - 「*」： 具体的な事例
 - 斜字： 関連付け

○教科の特質や作成者の思い

- ・ 特別支援学校学習指導要領解説各教科編（小学部・中学部）の巻末の一覧表を参考にまとめ，この一覧表を見れば，『職業・家庭科の特別支援学校学習指導要領の概要が分かる』ように作業を進めました。
- ・ 是非，授業の計画や指導案作成のときに，この一覧表を使っていただき，より具体的なことを知りたいときには学習指導要領解説で確認するといった「索引（インデックス）」としてお使いいただくとありがたいです。

職業・家庭（職業分野）及び職業

職業・家庭（職業分野）及び職業				
目標	生活の営みに係る見方・考え方や職業の見方・考え方を働かせ、生活や職業に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		職業に係る見方・考え方を働かせ、職業など卒業後の進路に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	(1)生活や職業に対する関心を高め、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。		(1)職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	(2)将来の家庭生活や職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を養う。		(2)将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	(3)よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。		(3)よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を養う。	
教科・分野	中学部・職業・家庭（職業分野）		高等部・職業	
段階の目標	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
	職業に係る見方・考え方を働かせ、作業や実習に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	職業に係る見方・考え方を働かせ、作業や実習に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	—	—
知識及び技能	ア 職業について関心を持ち、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	ア 働くことに対する関心を高め、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	ア 職業に関する事柄について理解するとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。	ア 職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 将来の職業生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気づき、実践し、学習したことを伝えるなど、課題を解決する力の基礎を養う。	イ 将来の職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを実現するなど、課題を解決する力を養う。	イ 将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価し、表現する力を養う。	イ 将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。	ウ 将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。	ウ よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への参画に向けて、生活を工夫しようとする実践的な態度を養う。	ウ よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を養う。

職業・家庭（職業分野）及び職業

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
A 職業生活	ア 働くことの意味・ 勤労の意味	ア 働くことの意味 働くことに興味をもち、 作業や実習等に関わる学習 活動を通して次の事項を身 に付けることができるよう 指導する。 小学部の生活科の内容構成 である「役割」や「手伝 い・仕事」の内容との関連 を踏まえる。	ア 働くことの意味 働くことに対する意欲や 関心を高め、他者と協力し て取り組む作業や実習等 に関わる学習活動を通して、 次の事項を身に付けること ができるよう指導する。 中1段階での学習を踏まえ る。	ア 勤労の意味 勤労に対する意欲や関心 を高め、他者と協働して取 り組む作業や実習等に関わ る学習活動を通して、次の 事項を身に付けることがで きるよう指導する。 中学部職業・家庭科の職業 分野の内容との関連を踏ま える。	ア 勤労の意味 勤労に対する意欲や関心 を高め、他者と協働して取 り組む作業や実習等に関わ る学習活動を通して、次の 事項を身に付けることがで きるよう指導する。 高1段階での学習を踏まえ る。
		(7) 働くことの意味など を知ること。 ・働いて物を作ったり、育 てたりすることが社会に役 立つこと、将来働くことを 通じて自立的な社会参加が できるようになることなど を知る。 *職場見学 *就業体験	(7) 働くことの意味など を理解すること。 ・働くことで自己実現を 図っていくことや社会の一 員として役割を果たしてい くことの大切さを理解す る。 *職場見学 *就業体験	(7) 勤労の意味を理解す ること。 ・多くの人々が社会の中で 働きながら生活しているこ と、人々は働くことを誇り としていること、働くこと を通して充実感や生きがい をもてるようになることな どを理解する。 ・進んで働く経験を通し て、充実感や生きがいを実 感する。 *職場見学 *産業現場等での実習	(7) 勤労の意味について 理解を深めること。 ・働くことで生計を維持し 自己実現を図ることができ る。 ・自分たちが取り組んでい る生産や生育活動等が社会 貢献につながるものが分か り、働くことの意味を実感 する。 *地域での販売会 *地域貢献活動
		(イ) 意欲や見通しをもつ て取り組み、自分の役割に ついて気付くこと。 ・作業工程における自分の 分担や作業全体で担う自分 の役割に気付く。 ・必要な情報に気付き、判 断し生徒同士で伝え合う。 *作業工程表等を用いた活 動	(イ) 意欲や見通しをもつ て取り組み、自分と他者と の関係や役割について考え ること。 ・自分の仕事と他者の仕事 分担や関連について理解す る。 ・相手の心情を知り、望ま しい関わり方や態度につい て考える。 *作業学習	(イ) 意欲や見通しをもつ て取り組み、その成果や自 分と他者との協力について 考え、表現する。 ・意欲や見通しをもつて取 り組み、自分の役割を果た すことや協力の仕方につい て考える。 ・協力することで得られる 効率性や仲間との連帯感な どを自らの体験を通して実 感できる。 ・職場の一員として、互い の声掛けや、作業のペース を合わせることで、報告や質 問など適切な関わり方につ いて考える。	(イ) 目標をもって取り組 み、その成果や自分と他者 との役割及び他者との協力 について考え、表現する。 ・作業工程全体における自 分や他者の役割を理解す る。 ・目標をもって取り組み、 作業の成果を確認し、自分 の役割に対する責任や協力 することの意味を考え、表 現する。
		(ウ) 作業や実習等で達成 感を得ること。 ・準備や片付けを含んだ一 連の活動を確実に成し遂 げ、達成感を得たり、製品 などへの感想を受けて満足 感を味わったりする。 ・学習記録を通して自己の 変容に気付く。 ・周囲の人の評価や感想に よって自分の成長を見つめ 直す。 *作業学習 *校内実習 「働くことの意味」と関連 させる。	(ウ) 作業や実習等に達成 感を得て、進んで取り組む こと。 ・自分の仕事や役割を成し 遂げたことや製品・生産物 等を通して地域に貢献でき たことを喜ぶ。 ・積極的に作業や実習等に 取り組む。 *地域での販売会 *地域貢献活動	(ウ) 作業や実習等に達成 感を得て、計画性をもって 主体的に取り組むこと。 ・作業を確実に成し遂げた り、自分が作ったものを販 売したりする活動を通して 達成感を得る。 ・準備や片付けを含んだ一 連の活動に見通しをもち、 自ら作業等に取り組む。 *販売学習 *実習	(ウ) 作業や実習等を通し て貢献する喜びを体得し、 計画性をもって主体的に取 り組むこと。 ・作業や実習を通して成就 感を得る。 ・他者から喜ばれたり、感 謝されたりする体験を通し て、自らの取組が作業全体 への貢献につながることを 知る。 ・働くことが地域への貢献 になることを実感し、生産 や生育活動等に努める意義 を理解する。 *販売学習 *実習

職業・家庭（職業分野）及び職業

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
A 職業生活	イ 職業 知識及び技能	イ 職業 職業に関わる事柄について、考えたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 職業 職業に関わる事柄について、考えを深めたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 職業 職業に関わる事柄について、他者との協働により考えを深めたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 職業 職業に関わる事柄について、他者との協働により考えを深めたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		<p>(ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。</p> <p>*作業学習</p> <p>⑦職業生活に必要な知識や技能について知ること。</p> <p>・職業の名称や仕事の内容、生産品や製品及び商品の名称、商店や会社の役割などを知る。</p> <p>・道具や工具などを安全や衛生に気を付けて使用できる。</p> <p>・担当する作業内容や方法が分かり終了の見通しをもって実施できる。</p> <p>・一定時間、集中して作業に取り組める。</p> <p>・作業を進める上で必要なコミュニケーションを行える。</p> <p>⑧職業生活を支える社会の仕組み等があることを知ること。</p> <p>・困ったり、悩んだりする状況が生じたり、何かやりたいことがあっても、それをどのように実現したら良いのか分からなかったりした時に相談ができる。</p> <p>・相談できる機関として各市区町村の福祉課等の役割などについて知る。</p>	<p>(ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。</p> <p>*作業学習</p> <p>⑦職業生活に必要な知識や技能について理解すること。</p> <p>・自分の長所や課題に気付き、自分が働きたい仕事に就くためにはどのような力を付けたらよいか考えたり、自分の行動や生活を見直したりできる。</p> <p>⑧職業生活を支える社会の仕組み等があることを理解すること。</p> <p>・様々な仕事や職業生活を支える仕組みについて調べる。</p>	<p>(ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。</p> <p>⑦職業生活に必要な知識や技能を身に付けること。</p> <p>・職場における生産活動等の社会的な意義を知る。</p> <p>・職場の役職やその役割、部、課及び係などの機能分担について知る。</p> <p>・勤務時間や残業などの労働時間、賃金、年次休暇などの基本的な労働条件を知る。</p> <p>・健康保険、雇用保険、年金などのあらましを知る。</p> <p>・職種によっては資格や検定等が必要であることを知る。</p> <p>・正確な作業を一定時間継続する。</p> <p>・作業目標の達成を意識して積極的に取り組む。</p> <p>・最後までやり遂げる。</p> <p>・時間帯や場所などに応じた服装、動作、挨拶や言葉遣いができる。</p> <p>・仕事に関連する伝達、作業伝票の処理、日報の記入などの簡単な実務を正確に行う。</p> <p>⑧職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法を理解すること。</p> <p>・雇用に関する各種援助や福祉サービス等の内容と利用方法を知る。</p> <p>・サービスを利用することを通して、職業生活を送るうえで生じる諸問題を解決・改善できることを知る。</p> <p>*雇用に関する関係諸機関と福祉サービスの関係諸機関の見学</p>	<p>(ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。</p> <p>⑦職業生活に必要な知識や技能を身に付けること。</p> <p>・職場の組織が分かり、職場では組織の一員として働くことができる。</p> <p>・労働時間及び勤務時間、賃金、福利厚生及び資格と給与等との関係などの基本的な条件を理解する。</p> <p>・健康保険、雇用保険、年金などの制度と活用方法を理解する。</p> <p>・様々な技能検定や資格取得について知る。</p> <p>・製品や作物の規格や基準を知り、定められた手順に従い正確な作業を行う。</p> <p>・判定基準に基づいて製品や作物の良否の判断を行ったり、作業の標準的な動作を順守したりする。</p> <p>・給料や年金の管理、病気になったときの健康保険の取扱い方など、生活に基づく実際の学習を通して理解する。</p> <p>*作業学習 *産業現場等での実習</p> <p>高1段階での学習を踏まえる。</p> <p>「A職業生活」の「ア勤労の意義」と「C産業現場等における実習」を十分に関連付ける。</p> <p>⑧職業生活を支える社会の仕組み等の利用方法について理解を深めること。</p> <p>・各種援護制度や相談先、利用方法等について、見学や利用の登録をして実際の・具体的に確認したり、資料にまとめたりする。</p> <p>・健やかな職業生活を維持するために、余暇活動に関するサービスを積極的な利用したり、地域資源を活用したりする。</p> <p>*福祉サービス関係の諸機関等の見学</p>

職業・家庭（職業分野）及び職業

内容		中 1 段階	中 2 段階	高 1 段階	高 2 段階	
A 職業生活	イ 職業	知識及び技能	<p>㉑材料や育成する生物等の扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について知ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作ること、育てること、運ぶこと、計数や計量を行うことなど作業に関する事を知る。 ・ 手洗いや身支度ができる。 ・ 作業手順や工程を理解し、材料や道具の用意などの作業の準備、半完成品の整理、完成品の計数や整理、材料や道具の片付け、諸点検などの作業の片付け等、一連の学習活動ができる。 ＊実践的・体験的な学習活動 	<p>㉒材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 製品の材料となる素材や生育する生物等の保管・管理、確実な作業や整理整頓ができる。 	<p>㉓材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる技術について理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原材料や収穫物、半製品、完成品の管理や保管方法が分かり、適切に取扱う。 ・ 必要な原材料の名称が分かる。 ・ 必要な分量を量って使用すること、材料や製品を整理して保管すること、基本的な加工方法や生育方法などが分かる。 ＊材料に応じた加工の方法 ＊基礎的な技術や育成する生物の特性を踏まえた育成環境を調整する基本的な方法 	<p>㉔材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる技術について理解を深めること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料や製品、収穫物の特徴を理解し、それぞれに適した方法で決められた場所に安全や衛生に留意して保管する。 ・ 仕事に関連する作業指示書、在庫表、報告書が分かり、その記入や読み取りなどの実務を適切に行う。 ・ 危険な場所や状況を予測したり不衛生な状態にならないよう日常的に対応したりしながら、製品や作物等をより多く生産する。
			<p>㉕作業課題が分かり、使用する道具の扱い方に慣れること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業時の服装や姿勢、材料や道具及び機械の持ち方や扱い方などの作業の適切な実施方法を知る。 ・ 手順の間違いや危険な取扱いなどについて取り上げ、安全に生産等するための要点に気付いたり、理解したりする。 <p>イ (7) ㉑及びイ (7) ㉒と関連させる。</p> <p>㉖作業の持続性や巧緻性などを身に付けること。</p>	<p>㉗作業課題が分かり、使用する道具や機械等の扱い方を理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業に必要な工具類や農具、工作機械等、安全に気をつけて操作することができる。 <p>㉘作業の確実性や持続性、巧緻性等を身に付けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間帯や場所に応じた適切な服装や動作、言葉遣いを行うことができる。 ・ 自分の仕事に責任をもって最後まで成し遂げようとすることができる。 	<p>㉙使用する道具や機械等の特性や扱い方を理解し、作業課題に応じて正しく扱うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道具や機械等の種類や用途が分かる。 ・ 作業内容に応じて使用する道具や機械を適切に選定する。 ・ 安全・衛生に留意して使用する。 ・ 道具や機械の手入れや簡単な修理及び管理を行う。 <p>㉚作業の確実性や持続性、巧緻性等を高め、状況に応じて作業すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業の準備、活動、片付けの一連の学習活動を積み重ねることを通して、正確な作業に安定して取り組んだり、身体の円滑な動きや手指の細やかさを身に付けたりする。 ・ 作業環境に応じて身支度を整えたり、急な作業内容の変更などにも対応して作業したりする。 ・ 他者と協力して作業を進めることができる。 	<p>㉛使用する道具や機械等の特性や扱い方の理解を深め、作業課題に応じて効果的に扱うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工具や農具、工作機械、運搬用の機器、製造機器などの特徴や構造、扱い方が分かり、効率を考慮して確実に扱う。 ・ 作業内容と使用する道具や機械の仕組みが分かり、道具や機械を安全かつ正確に使う。 <p>㉜作業の確実性や持続性、巧緻性等を高め、状況に応じて作業し、習熟すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業の要領や注意を集中するポイントが分かり、自分の作業を評価し、必要に応じて修正し、担当する作業について技術を高めることができる。 ・ 作業工程において全体の流れが合理的になるように調整することができる。 ・ 材料や完成品の配置や運搬方法を工夫し、無駄な動作をなくした作業をすることができる。 ・ 材料や生育の状態等を踏まえて作業する。 ・ 機械等が不調になったり、不良品が出たりしたときに適切に対応できる。

職業・家庭（職業分野）及び職業

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
A 職業生活	イ 職業 思考力・判断力・表現力等	<p>(イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。</p> <p>⑦職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。</p> <p>④作業に当たり安全や衛生について気付き、工夫すること。</p> <p>⑧職業生活に必要な健康管理について気付くこと。</p>	<p>(イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。</p> <p>⑦職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について、考えて、発表すること。</p> <p>④作業上の安全や衛生及び作業の効率について考えて、工夫すること。</p> <p>⑧職業生活に必要な健康管理について考えること。</p> <p>・仕事に安定的に取り組むための健康管理の仕方を考える。</p>	<p>(イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。</p> <p>⑦作業や実習における役割を踏まえて、自分の成長や課題について考え、表現すること。</p> <p>・自分の役割を確実に実行し最後までやり遂げる。 ・自分の成長や課題に気付く、さらなる向上や解決に向けた方策を考える。 ・他の生徒や保護者及び教師などに伝えたり、作業日誌に文章でまとめたりする。</p> <p>④生産や生育活動等に関する技術について考えること。</p> <p>・安全に品質の良い製品や生産物を作るための要点を技術面から確認する。 *生産や生育活動 *地域や産業界の人材からの技術指導</p> <p>⑧作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、改善を図ること。</p> <p>・危険な場所や状況に注意を払い、健康に悪影響を与えるような状況を避ける。 ・材料を大切に扱う。 ・安全や衛生に関する用語や表示を確認し、自分や他者の安全・衛生に気を配って作業をする。 ・機械の故障や危険な状況、あるいは不衛生な状態に気付いたら知らせたり、適切な処理を行ったりすることができる。 *作業学習 *実習</p> <p>⑨職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方について考えること。</p> <p>・自らの健康を守る方法や休日の有効な過ごし方や職場での休憩時間などについて考える。 *健康管理の方法 *検診等の受け方 *公共施設やサービスの利用方法 *職場でのつきあい方 *休日の適切な過ごし方</p>	<p>(イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。</p> <p>⑦作業や実習において、自ら適切な役割を見いだすとともに、自分の成長や課題について考え、表現すること。</p> <p>・自分の能力や適性について理解を深め、自分の得手不得手や作業の特質等を踏まえて適切な役割を選択することができる。</p> <p>卒業後の進路を選択する視点にもつながるため、思考力、判断力、表現力等の育成と相互に関連付ける。</p> <p>④生産や生育活動等に係る技術に込められた工夫について考えること。</p> <p>・それぞれの工程において、工夫と安全性、品質や収量等の効率、環境に対する負荷、経済性等の関係などについて考える。</p> <p>⑧作業上の安全や衛生及び作業の効率について考え、他者との協働により改善を図ること。</p> <p>・他者と協調して効率よく仕事をする。 ・必要に応じて相談したり、助言を得たりして課題を解決する。</p> <p>⑨職業生活に必要な健康管理や余暇の過ごし方について考えること。</p> <p>・自らの健康を維持する方法や職場での休憩等の時間を積極的に生かす方法について考える。 ・産業現場等における健康管理の方法や職場の習慣を踏まえ、効率のよい休憩時間の使い方を考える。 *福祉サービスの利用 *生涯学習への参加 *職場のレクリエーションやサークル活動への参加 *福利厚生施設の利用</p> <p>「A職業生活」の「イ職業」の(7)の④や、家庭科や保健体育科などの指導と関連付ける。</p>

職業・家庭（職業分野）及び職業

内容	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階	
	職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器に触れることに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	職業生活や社会生活で使われるコンピュータ等の情報機器に扱うことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器を扱うことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 <i>中学部職業・家庭科の職業分野の内容との関連を踏まえる。 音楽プレーヤー、ゲーム機、腕時計等にも情報通信機能が付加されているものがあることを踏まえて、その取扱いについては生徒指導と関連付ける。</i>	職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器を扱うことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 高1段階での学習を踏まえる。	
B 情報機器の活用	知識及び技能	<p>ア コンピュータ等の情報機器の初歩的な操作の仕方を知ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット（携帯用端末）を含んだコンピュータ等の情報機器、固定電話やスマートフォンを含んだ携帯電話、ファクシミリ等の通信機器、複写機（コピー機）等の事務機器などの初歩的な操作の仕方について知る。 ・情報機器を使用する際のルールやマナー、インターネット利用上のトラブルなどの危険性を回避する具体的な方法について理解する。 <p><i>音楽プレーヤー、ゲーム機、腕時計等にも情報通信機能が付加されているものがあることを踏まえて、その取扱いについては生徒指導と関連付ける。</i></p>	<p>ア コンピュータ等の情報機器の基礎的な操作の仕方を知り、扱いに慣れること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ等の情報機器、固定電話や携帯電話、ファクシミリ等の通信機器、複写機（コピー機）等の事務機器などの操作の仕方を意識しなくても円滑に扱うことができる。 	<p>ア 情報セキュリティ及び情報モラルについて知るとともに、表現、記録、計算、通信等に係るコンピュータ等の情報機器について、その特性や機能を知り、操作の仕方が分かり、扱えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全にインターネット等の情報通信ネットワークを利用する上で必要となる情報の管理方法を知る。 ・情報機器を使用する際のルールやマナーを知る。 ・作業で育成した農産物や作成した製品などの数量や出納簿の管理及び計算をする。 ・デジタルカメラなどを組み合わせて活動報告等を作成する。 ・仕事に関する要件を正確に伝えたり、受けたりすることができる。 <p>*表計算ソフトウェア *文書作成ソフトウェア *周辺機器の利用 *電話やファクシミリの操作方法</p>	<p>ア 情報セキュリティ及び情報モラルについて理解するとともに、表現、記録、計算、通信等に係るコンピュータ等の情報機器について、その特性や機能を理解し、目的に応じて適切に操作すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット等の情報通信ネットワークを活用することの長所を十分に理解した上で、パスワードやアドレスなどの管理の重要性が分かり、情報を漏洩しない方法を身に付ける。 ・コンピュータウイルス対策ソフトウェアのインストールやそれらを最新のものに更新することの必要性を理解する。 ・情報通信ネットワークを適正に活用することができる。 ・「ネット依存」などの問題やトラブルに巻き込まれた際の対応について知る。 ・どのような操作をすれば効率よく最適に処理できるかについて判断し、その特性や機能を十分に活用する。
	思考力・判断力・表現力等	<p>イ コンピュータ等の情報機器に触れ、体験したことなどを他者に伝えること。</p>	<p>イ コンピュータ等の情報機器を扱い、体験したことや自分の考えを表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット等の情報通信ネットワークを使った情報収集や、コンピュータやタブレットを使った画像や映像などにより体験したことや自分の考えを表現する。 ・インターネット上の情報収集や情報発信が自分の生活に及ぼす影響が分かる。 ・情報機器を使用する際のルールやマナー、人権侵害の防止、危険を回避する具体的な方法などを身に付け、適切な使用ができる。 	<p>イ 情報セキュリティ及び情報モラルを踏まえ、コンピュータ等の情報機器を扱い、収集した情報をまとめ、考えたことを発表すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット等の情報通信ネットワークを活用して情報収集し、プレゼンテーションソフトウェアなどを使用してデータを作成し、発表する。 <p><i>コンピュータや情報機器の活用により、コミュニケーションの補助や代替が効果的に行える可能性があることから、一人一人の生徒の実態に応じ、自立活動を関連付けて指導することが考えられる。</i></p>	<p>イ 情報セキュリティ及び情報モラルを踏まえ、コンピュータ等の情報機器を扱い、収集した情報をまとめ、考えたことについて適切に表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット等の情報通信ネットワークを活用し、自分が考えたことを表現するために必要な情報を収集してまとめ、資料を作成したり、発表したりする。 <p>*チラシ、パンフレット、ポスター作り *実習関係の資料作成</p>

職業・家庭（職業分野）及び職業

内容	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
	<p>実際の学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>「職場見学」や「校内実習」、「就業体験」などの実際の学習活動と相互に関連付ける。</p>	<p>実際の学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>産業現場等における実習を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>中学部職業・家庭科の職業分野の内容との関連を踏まえる。</p>	<p>産業現場等における実習を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>高1段階での学習を踏まえる。</p>
<p>C 産業現場における実習</p>	<p>知識及び技能</p> <p>ア 職業や進路に関わることについて関心をもったり、調べたりすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場見学や卒業生の進路先に行って聞き取る。 ・働いている人の様子や仕事の内容、職場での生活について調べる。 ・職場や家庭などでの過ごし方の実際を知ったり、それぞれの生活において必要となる事柄を身に付けたりする。 <p>*卒業生との職場訪問 *職場見学 *身近な地域の職場調べ</p>	<p>ア 職業や進路に関わることについて調べて、理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が直接働く人と関わりながら実践的な知識や技能に触れることを通して、働く活動の大切さが分かる。 ・職場のきまりを知ることや健康を維持することなど、働く上で必要となる基本的な事柄を理解する。 ・将来の進路について考える。 <p>*卒業生との職場訪問 *職場見学 *身近な地域の職場調べ</p>	<p>ア 職業など卒業後の進路に必要となることについて理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習先で生産しているものが社会でどう利用されているかを理解する。 ・製品の良否が分かり、不良品を出さないように注意して仕事をする。 ・実習先のいろいろなきまりを守ったり、仕事に関する自分の分担に責任をもって最後までやり遂げたりする。 ・状況に応じて自ら職場の人と協力する。 ・実習中の健康、安全及び衛生に注意して生活する。 ・適切に余暇を過ごすことができる。 ・職場において適切なコミュニケーションが取れる。 <p>*産業現場等における実習 *上司や同僚とのコミュニケーションなどについてのロールプレイング</p>	<p>ア 職業など卒業後の進路に必要となることについて理解を深めること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産品や製品又は商品の名称やその取扱い、それらの社会的な有用性を知る。 ・企業の組織体制及び配属された職場における職制を知る。 ・分業や協働における責任と職場で必要とされる作業態度を知る。 ・自分にも他者にも重要な安全・衛生及び健康の維持、休憩時間等の余暇の過ごし方について知る。 ・通勤の方法や通勤にふさわしい服装について理解する。 ・通勤中に起きたトラブルに対処する方法を身に付ける。 <p>*産業現場等における実習 *現場や公共でのマナーなどについてのロールプレイング</p> <p>「A職業生活」の「イ職業」を中心に各項目の内容を横断的・発展的に関連させる。</p>
	<p>思考力・判断力・表現力等</p> <p>イ 職業や職業生活、進路に関わることについて、気付き、他者に伝えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な製品がどのように作られるのか、身近な商店等でのようなやりとりがあるのかなど、仕事のことを調べる。 ・働いている人々の話を聞く。 ・分かったこと気付いたことを話し合ったり資料にまとめたりする。 ・進路選択に向けて、希望する進路や職業等について考えたり、判断したことを伝えたりする。 <p>*職場見学 *就業体験 *アで調べたこと、分かったこと、気付いたこと、感じたことなどの話し合い活動・まとめ資料作成</p>	<p>イ 職業や職業生活、進路に関わることと自己の成長などについて考えて、発表すること。</p>	<p>イ 産業現場等における実習での自己の成長について考えたことを表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の課題を明らかにし、資料にまとめ発表する。 ・自己の能力や適性などについて理解を促し、以後の学習において改善を図る。 ・職場等で実際に働くことが、地域社会への貢献や人間関係の広がりなどにつながることに気付く。 ・自己の成長を実感することで働く意欲を一層高める。 <p>*職場実習の事前指導・事後指導</p>	<p>イ 産業現場等における実習で課題の解決について考えたことを表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような作業指示書があれば理解しやすいのか、どのような治具・補助具、マニュアル等の支援や援助があれば正確な作業ができるのかを比較・検討したり、これまでの学習経験から見立てたりして申し出る。 ・自己の成長を確かめ、働く意欲を一層向上させる。 ・自分に合った解決方法を見だし解決できる。 ・適切な表現で意思を伝えることができる。 <p>*職場実習の事前指導・事後指導</p> <p>自己の能力や適性への理解を促し、進路選択に生かすとともに、自立活動と関連付けて指導する。</p>

職業・家庭（家庭分野）及び家庭

職業・家庭（家庭分野）及び家庭				
目標	生活の営みに係る見方・考え方や職業の見方・考え方を働かせ、生活や職業に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次の通り育成することを目指す。		生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	(1)生活や職業に対する関心を高め、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。		(1)家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	(2)将来の家庭生活や職業生活に必要な事柄を見いだし課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を養う。		(2)家庭や地域における生活の中から問題を見いだし課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	(3)よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。		(3)家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。	
教科・分野	中学部・職業・家庭（家庭分野）		高等部・家庭	
段階の目標	中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識及び技能	ア 家庭の中の自分の役割に気づき、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 家族や自分の役割について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 家族・家庭の機能について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 家庭生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気づき、実践し、学習したことを伝えるなど、日常生活において課題を解決する力の基礎を身を養う。	イ 家庭生活に必要な事柄について考え、課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを表現するなど、日常生活において課題を解決する力を養う。	イ 家庭や地域における生活の中から問題を見いだし課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。	イ 家庭や地域における生活の中から問題を見いだし課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 家庭や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。	ウ 家庭や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする実践的な態度を養う。	ウ 家族や地域の人々との関わりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。	ウ 家族や地域の人々との関わりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。

職業・家庭（家庭分野）及び家庭

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
A 家族・家庭生活	自分の成長と家族	ア 自分の成長と家族 自分の成長に気付くことや家族のことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 自分の成長と家族 自分の成長と家族や家庭生活などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 自分の成長と家族 自分の成長と家族や家庭生活などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 自分の成長と家族 自分の成長と家族や家庭生活などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(7) 自分の成長を振り返りながら、家庭生活の大切さを知ること。 ・自分の成長を具体的に明らかにすること(例：服をハンガーに掛けることができた、気持ちを相手に伝えられるようになった)で、気付きや喜び、意欲をもつことができる。	(7) 自分の成長を振り返り、家庭生活の大切さを理解すること。 ・家族それぞれの役割や立場が分かり、家庭内の仕事や役割を果たしていること、思いやりや愛情によって支え合いながら営まれていることを知る。 *調べ学習 *教師や友達家族との会話	(7) 自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家庭生活が家族の協力によって営まれていることに気付くこと。 ・自分がこれまで成長してきた過程を振り返り、自分の成長や生活は、家族や家庭生活に支えられてきたことが分かる。 ・健康、快適で安全な家庭生活は、家庭の仕事や協力して行うなど、家族の協力によって営まれていることに気付く。	(7) 自分の成長と家族や家庭生活の関わりが分かり、家庭生活が家族の協力によって営まれていることを理解すること。 ・家族の一員として自身の役割を果たす必要があることを理解する。
		(イ) 家族とのやりとりを通して、家族を大切にすることを育み、よりよい関わり方について気付き、それらを他者に伝えること。 ・家庭には衣食住や家族に関する仕事があること、自分や家族の生活を支えていることに気付く。 ・家族が協力して分担する必要があることが分かる。 ・自分の成長を支えてくれる家族の存在に気付き、感謝の気持ちをもつ。 ・生活時間の有効な使い方の理解ができる。	(イ) 家族とのやりとりを通して、家族を大切にすることを育み、よりよい関わり方について考え、表現すること。	(イ) 家族とのよりよい関わり方について考え、表現すること。 ・家族の生活時間を見直し、触れ合いや団らんの時間や場を生み出し楽しくする方法等について考え表現できる。	(イ) 家族とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。 ・家族の団らんに加わり、家族の心情を受け止めたりすることについて考え、工夫することができる。
	家庭生活での役割と地域との関わり	イ 家庭生活と役割 家庭の中で役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 家庭生活と役割 家庭生活での役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 家庭生活での役割と地域との関わり 家族との触れ合いや地域の人々と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 家庭生活での役割と地域との関わり 家族や地域の人々などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(7) 家庭における役割や地域との関わりについて関心を持ち、知ること。 ・家庭の中で、自分で行うことによって自分の役割を果たす。	(7) 家庭における役割や地域との関わりについて調べて、理解すること。 ・家族にはそれぞれの役割があり、相互に支え合っていることに気付く。 ・家族に対する感謝の気持ちを高める。	(7) 家庭生活において、地域の人々との協力が大切であることに気付くこと。 ・地域で共に生活している幼児や高齢者など、異なる世代の人々との関わりについて問題を見いだすことができる。	(7) 家庭生活において、地域の人々との協力が大切であることを理解すること。 ・
		(イ) 家庭生活に必要なことや自分の果たす役割に気付き、それらを他者に伝えること。 ・家族の役に立つことを実感し、自分なりに工夫する。	(イ) 家庭生活に必要なことに関して、家族の一員として、自分の果たす役割を考え、表現すること。 ・家族の一員として家庭生活の中で担う役割を考え、実際に役割を果たすことができる。	(イ) 家族と地域の人々とのよりよい関わり方について考え、表現すること。 ・自分が協力できることは何かについて考え表現できる。	(イ) 家族と地域の人々とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。
	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	知識及び技能

職業・家庭（家庭分野）及び家庭

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
A 家族・家庭生活	家族生活における余暇・家族生活における健康管理と余暇	ウ 家庭生活における余暇 家庭生活における余暇に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 家庭生活における余暇 家庭生活における健康管理や余暇に関わる学習活動を通して次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 家庭生活における健康管理と余暇 家庭生活における健康管理や余暇に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 家庭生活における健康管理と余暇 家庭生活における健康管理や余暇に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		<p>(7) 健康や様々な余暇の過ごし方について知り、実践しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での食事や睡眠等、生活習慣や生活リズム、余暇の過ごし方等の日常生活が健康に大きく影響をしていることを知る。 ・一人で楽しむだけでなく他者と共有する大切な時間でもあることに気付く。 *文化・芸術的な活動 (読書、絵画制作・鑑賞、楽器演奏・音楽鑑賞、手芸、園芸、飼育、テレビ視聴など) *体育的な活動 (遊具・器具を使った遊び、運動・スポーツなど) *団らん 	<p>(7) 健康管理や余暇の過ごし方について理解し、実践すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った健康管理や余暇の過ごし方について理解し、家庭生活の中で実践できる。 ・家庭における自分の生活を見直し、規則正しく健康に気を付けて生活する。 	<p>(7) 健康管理や余暇の有効な過ごし方について理解し、実践すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での食事、睡眠、生活習慣、生活リズム等の日常生活が、健康に影響を及ぼすことを理解する。 ・スポーツや音楽鑑賞、ペットの飼育、植物の栽培などを行うことなどにより、生活を楽しむことができる。 ・親戚や友達の家を訪問したり、来客の対応をしたりして過ごすことができる。 	<p>(7) 健康管理や余暇の有効な過ごし方について理解を深め、実践すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人が自由に使える時間や休日を自分の趣味に有効に活用すること、家族などと有意義に余暇を過ごすことについて理解し、実践できる。
	<p>(4) 望ましい生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気付き、工夫すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での余暇活動について計画を立てる。 	<p>(4) 望ましい生活環境や健康管理及び自分に合った余暇の過ごし方について考え、表現すること。</p>	<p>(4) 健康管理や余暇の有効な過ごし方について考え、表現すること。</p>	<p>(4) 健康管理や余暇の有効な過ごし方について考え、工夫すること。</p>	
	<p>エ 幼児の生活と家族 幼児と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児と遊んだり、絵本を読み聞かせたりするなどの幼児と関わる活動を通して、幼児期特徴や関わり方等について知る。 2段階におけるA家族・家庭生活のエの「家族や地域の人々との関わり」の内容とも、関連付ける。 	<p>エ 家族や地域の人々との関わり 家族との触れ合いや地域の人々と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>エ 乳幼児や高齢者などの生活 乳幼児や高齢者と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>エ 乳幼児や高齢者などの生活 乳幼児や高齢者と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	
<p>幼児の生活と家族・乳幼児や高齢者などの生活・家族や地域の人々との関わり</p>	<p>(7) 幼児の特徴や過ごし方について知ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児は、食事、排泄、着脱衣、清潔など様々な場面で他者の支えが必要なこと、遊びや睡眠の時間が多いなどの特徴があることを知る。 ・自分との違いに気付いたり、自分の幼い頃を振り返ったりするなどして自己理解を進め、他者への思いやりの気持ちをもつ。 	<p>(7) 地域生活や地域の活動について調べて、理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の周りの商店等で働く人や近所に暮らす人などと、様々な場所で交流する。 	<p>(7) 乳幼児や高齢者などの生活の特徴、乳幼児や高齢者などとの関わり方について気付くこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児と触れ合うことで、遊びや食事などの活動や着衣などから、乳幼児の生活の特徴に気付く。 ・療養中の家族や介護の必要な高齢者の食事、服薬、睡眠などの様子から、通常とは異なる配慮が必要なが分かり、適切に接することができる。 	<p>(7) 乳幼児や高齢者などの生活の特徴が分かり、乳幼児や高齢者などとの関わり方について理解すること。</p>	

職業・家庭（家庭分野）及び家庭

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
A 家族・家庭生活	幼児の生活と家族・家族や地域の人々との関わり ・乳幼児や高齢者などの生活	<p>(イ) 幼児への適切な関わり方について気付き、それらを他者に伝えること。</p> <p>・幼児への言葉のかけ方や働きかけの仕方、相手を思いやりながら優しく関わることの必要性に気付く。</p>	<p>(イ) 家族との触れ合いや地域生活に関心をもち、家族や地域の人々と地域活動への関わりについて気付き、表現すること。</p> <p>・活動を通して地域の特色や文化、産業などのよさに気付く。</p> <p>・地域の人々との関わりを大切にす気持や地域に積極的に関わろうとする意欲をもつ。</p> <p>・近隣の人々や身近な環境との関わりを大切にすることにより、よりよい生活が実現できることに気付く。</p>	<p>(イ) 乳幼児や高齢者などとのよりよい関わり方について考え、表現すること。</p>	<p>(イ) 乳幼児や高齢者などとのよりよい関わり方について考え、工夫すること。</p>
	<p>思考力・判断力・表現力等</p>				
B 衣食住の生活	食事の役割・必要な栄養を満たす食事 知識及び技能	<p>ア 食事の役割</p> <p>食事の仕方や食事の大切さに気付くことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>健康な生活と関連付ける。</p>	<p>ア 食事の役割</p> <p>楽しく食事をするための工夫などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>ア 食事の役割</p> <p>食事の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>ア 必要な栄養を満たす食事</p> <p>自分に必要な栄養を満たす食事に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>
		<p>(イ) 健康な生活と食事の役割について知ること。</p> <p>・健康を保ち、体の成長や活動のもとになることや、一緒に食事をする中で、人と楽しく関わったり、和やかな気持ちになったりすることについて気付く。</p> <p>・心身の状態により、食べる量が異なるなど、個人差があることを知る。</p>	<p>(イ) 健康な生活と食事の役割や日常の食事の大切さを理解すること。</p> <p>・自分の食生活に関心をもち、健康によい食事のとり方について気付き、考える。</p> <p>・日常の食事に関心をもち課題点をあげる。</p> <p>・1日の生活の中で3食を規則正しくとり、栄養や食品をバランスよくとることの重要性を理解する。</p> <p>・自己の食事改善点や解決方法を考える。</p>	<p>(イ) 生活の中で食事が果たす役割について理解すること。</p> <p>・食事を共にすることが人間関係を深めたり、偏食を改善し、栄養のバランスのよい食事にもつながったりすることが理解できる。</p> <p>・行事食や郷土料理など、食事が文化を伝える役割もあることを理解できる。</p> <p>・孤食と共食との比較から、重要性に気付く。</p> <p>・楽しく食べるための工夫が必要であることに気付く。</p>	<p>(イ) 自分に必要な栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的特質について理解すること。</p> <p>・栄養素及びその働き、一日に必要な食物の量、いろいろな食品を組み合わせる必要があることが分かる。</p> <p>・食品に含まれる栄養素の種類と量など栄養的特質によって、食品は食品群に分類されることを理解する。</p> <p>・栄養素の種類と量については、日本食品標準成分表に示されていることが分かる。</p>
		<p>(イ) 適切な量の食事を楽しくとることの大切さに気付き、それらを他者に伝えること。</p> <p>・必要な栄養や食事量を適切にとることに気付く。</p> <p>・家族や親しい人と一緒に食えることや落ち着ける環境で食えることにより、気持ちが一層満たされることを実感すること、食事の時間を楽しみにしたり、美味しいことを喜び、伝え合い共有したりする。</p>	<p>(イ) 日常の食事の大切さや規則正しい食事の必要性を考え、表現すること。</p> <p>・栄養のバランスや食品について考えたことを伝える。</p> <p>・改善や解決方法など自分の実践を発表する。</p>	<p>(イ) 健康によい食習慣について考え、工夫すること。</p> <p>・欠食や偏食を避け栄養のバランスがよい食事をとる。</p> <p>・1日3食を規則正しくとる。</p> <p>・健康保持増進のためには運動や休養も重要な要素であることが分かる。</p> <p>・適度な運動量を確保しながら、食事で必要な栄養量をとる。</p> <p>・よりよい食習慣について考え工夫する。</p>	<p>(イ) 一日分の献立について考え、工夫すること。</p>
<p>思考力・判断力・表現力等</p>					

職業・家庭（家庭分野）及び家庭

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階	
B 衣食住の生活	栄養を考えた食事		イ 栄養を考えた食事 バランスのとれた食事について考えることに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。			
		知識及び技能		(ア) 身体に必要な栄養について関心をもち、理解し、実践すること。 ・食品に含まれる栄養素の特徴により三つのグループ分けられることが分かる。 ・日常の食事に使われる食品をグループに分類できる。		
		思考力・判断力・表現力等		(イ) バランスのとれた食事について気づき、献立などを工夫すること。 ・身近な給食や食事の場面を活用し、栄養のバランス、主食と副食、汁物の組み合わせ、彩り、味のバランスについて考える。		
	調理の基礎・日常食の調理	イ 調理の基礎 必要な材料を使って食事の準備をすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 *簡単な調理	ウ 調理の基礎 食事の準備や調理の仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 日常食の調理 日常食の調理に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 日常食の調理 日常食の調理に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	

職業・家庭（家庭分野）及び家庭

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階	
B 衣食住の生活	調理の基礎・日常食の調理	知識及び技能	<p>(7) 簡単な調理の仕方や手順について知り、できるようにすること。</p> <p>・電子レンジやホットプレートのような電気で加熱できるもの、家庭で身近に使用できる加熱用調理器具を使えるようにする。</p>	<p>(7) 調理に必要な材料の分量や手順などについて理解し、適切にできること。</p> <p>*家庭との連携 *宿泊を伴う学習</p>	<p>(7) 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択、食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理、材料に適した加熱調理の仕方について知り、基礎的な日常食の調理ができること。</p> <p>・目的、栄養、価格、調理の能率、環境への影響などの諸条件を考えて選択することが大切であることを知る。</p> <p>・生鮮食品については、魚、肉、野菜などの鮮度や品質の見分け方について知る。</p> <p>・加工食品については、原材料や食品製造年月日、消費期限や消費期限との違いや見方、保存方法などの表示について理解し、用途に応じて選択し安全に調理ができるようにする。</p> <p>・ごみを適切に処理する必要があることを知る。</p> <p>・調理実習に用いる用具を中心に正しい使い方や安全な取扱い方を知る。</p> <p>・ゆでる、いためる、煮る、焼く、蒸す等、火加減の調節や、加熱器具を適切に操作して調理ができる。</p> <p>・材料の種類や切り方などによって煮方が異なること、調味の仕方が汁の量によって異なることなどを知る。</p> <p>・直火焼き、フライパンやオープンなどを用いた間接焼きなどそれぞれ特徴があることを知る。</p> <p>・水蒸気で加熱する蒸し調理の特徴を知る。</p> <p>・魚や肉については、加熱することで衛生的で安全になることや、中心まで火を通す方法を知る。</p> <p>・加熱の方法や食材の部位によって調理法が異なることを知る。</p> <p>・種類や肉の部位等によって調理法が異なることやたんぱく質が加熱によって変性・凝固し、硬さ、色、味、においが変化するため、調理の目的に合った加熱方法が必要であることを知る。</p> <p>・野菜は、生食できること、食塩や加熱で組織が軟らかくなること、切り方や加熱のしすぎで色が悪くなり、それを防止する方法などを知る。</p> <p>・野菜は加熱によってかさが減り、食べやすくなることを知る。</p> <p>・適切な洗い方、安全な包丁の使い方、調理の目的に合った調味料の使い方、計量器の適切な使用方法について知る。</p> <p>・外観や料理の様式に応じた盛り付けや配膳があることを知る。</p>	<p>(7) 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択、食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理、材料に適した加熱調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理ができること。</p>

職業・家庭（家庭分野）及び家庭

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
B 衣食住の生活	調理の基礎・日常食の調理	<p>(イ) 簡単な調理計画について考えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なレシピで調理の見通しをもつ。 ・グループで役割分担をする。 ・タブレット端末等の情報機器等を効果的に用い、確認や振り返りに活用する。 ・調理の過程や料理のでき上がりや味、食べ方について関心をもち、自分で調理をしようとする。 	<p>(イ) 調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な材料や調理器具、調理の手順を考えて、準備から後片付けまで見通しをもち、時間配分をしたり、調理に適した調理用具を準備したりする。 ・食中毒の予防のために、安全で衛生的な扱い方をする。 ・食品の保存方法と保存期間については食品の腐敗や食中毒の原因と関連づける。 ＊ガスや火の取扱い ＊まな板や布巾の取扱い ＊魚や肉などの生の食品の取扱い 	<p>(イ) 基礎的な日常食の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、表現すること。</p>	<p>(イ) 基礎的な日常食の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること。</p>
	衣服の着用と手入れ	<p>ウ 衣服の着用と手入れ 衣服の着方や手入れの仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ＊日常着の着方 ＊活動に応じた衣服の着方 	<p>エ 衣服の着用と手入れ 衣服の手入れや洗濯の仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>ウ 衣服の選択 衣服の選択に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>ウ 衣服の手入れ 衣服の手入れに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>
	衣服の着用と手入れ・衣服の手入れ	<p>(ア) 場面に応じた日常着の着方や手入れの仕方などについて知り、実践しようとする。</p>	<p>(ア) 日常着の使い分けや手入れの仕方などについて理解し、実践すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域での学習や実習、家族との外出、余暇など、目的や時期、場所などを考えた衣服の着方や身だしなみを整える。 ・行事等によって衣服や着方に決まりがあることなどについて気付く。 ＊日本の伝統的な衣服 	<p>(ア) 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所属や職業を表したり、行事によって衣服や着方にきまりがあったりすることが分かる。 ・和服と洋服の構成や着方の違いに気付く。 ・学校生活や行事、訪問などの目的ら応じたそれぞれの場にふさわしい着方があることを理解する。 ・衣服の種類や組合せ、襟の形やゆとり、色などによって人に与える印象が違ふことを理解する。 ・既製服での組成表示、取り扱い表示、サイズ表示などの意味を理解する。 ・衣服の購入には縫い方、ボタン付けなどの縫製の良否、手入れの仕方、手持ちの衣服との組み合わせ、価格などに留意し衣服を選択する。 ・サイズや身体部位の寸法で示されることや、計測の仕方を理解する。 ・他の人から譲り受けたり、リフォームしたりする方法があることを知る。 	<p>(ア) 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綿、毛、ポリエステルなどの丈夫さ、防しわ性、アイロンかけの効果、洗濯による収縮性など、手入れに関わる基本的な性質とその違いに応じた手入れの仕方を理解し、適切にできる。 ・洗剤の働きと衣服の材料に応じた洗剤の種類などが分かる。 ・洗剤を適切に選択して使用できる。 ・汚れの性質、洗剤の働き、電気洗濯機の水流的強弱、部分洗いの効果などに気付く。 ・布の収縮や型くずれに配慮した洗い方や干し方などがあることを知る。 ・電気洗濯機を用いた洗濯の方法と特徴を理解し、洗濯機を適切に使用できる。 ・衣服によっては専門業者に依頼する必要があることや、手入れをした衣服を適切に保管する必要があることに気付く。 ・衣服を大切にし、長持ちさせるために目的と布地に適した方法（裾上げ、ほころび直し、スナップ付けなどの補修の仕方）について理解し、適切にできる。 ・日常着の日常の手入れとして、ブラシかけなどが有効であることを理解し、適切にできる。

職業・家庭（家庭分野）及び家庭

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
B 衣食住の生活	衣服の着用と手入れ ・ 衣服の手入れ	(イ) 日常着の着方や手入れの仕方に気付き、工夫すること。 ・ 季節や気温に応じた衣服の選択、汚れた衣服の始末や洗濯物の整理など、基本的な衣服の取扱いについて体験する。 ・ 学校生活や家庭生活において実践する。	(イ) 日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること。	(イ) 衣服の選択について考え、工夫すること。 ・ 健康・快適などの視点から衣服の選択について考え、工夫することができる。	(イ) 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて考え、工夫すること。
	布を用いた製作	-	-	エ 布を用いた製作 布を用いた製作に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	エ 布を用いた製作 布を用いた製作に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	知識及び技能	-	-	(ア) 目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解し、適切にできること。 ・ 手縫いでは、縫い方の違いや縫う部分や目的に応じて適した縫い方を選ぶことを理解し、できる。 ・ ミシン縫いでは、丈夫で速く縫えるという特徴や使い方が分かり、直線縫いを主としたミシン縫いができる。	(ア) 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解すること。 ・ ミシンの使用に慣れ、簡単な物を縫うことができる。
	思考力・表現力等	-	-	(イ) 目的に応じた縫い方について考え、工夫すること。	(イ) 布を用いた簡単な物の製作計画を考え、製作を工夫すること。 ・ 型紙に合わせて裁断し、ミシンを使って作る簡単な小物や袋物の製作計画を考え、ミシンを使った製作を工夫する。
住居の基本的な機能と快適で安全な住まい方	エ 快適な住まい方 持ち物の整理や住まいの清掃などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	オ 快適で安全な住まい方 住まいの整理・整頓や清掃などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 * 避難訓練 * 防災や防犯に対する学習	オ 住居の基本的な機能と快適で安全な住まい方 住居の基本的な機能や快適で安全な住まい方に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	オ 住居の基本的な機能と快適で安全な住まい方 住居の基本的な機能や快適で安全な住まい方に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
知識及び技能	(ア) 住まいの主な働きや、整理・整頓や清掃の仕方について知り、実践しようとする事。 ・ 窓や換気扇、照明器具や日よけ、カーテンなどの役割、室内の整理整頓や清掃について取り上げ適切に行い、使用することにより、より快適で健康に暮らすことができることを実感する。 日常生活の指導などと関連付ける。	(ア) 快適な住まい方や、安全について理解し、実践すること。 ・ ガスや火器、刃物などの危険物についての注意や、落下物や階段など、家庭内で起こる様々な事故や防ぎ方について知る。 ・ 住まいの整理・整頓や清掃が重要であることを知る。 ・ 扉や窓の施錠や鍵の管理、セールス等の訪問者への基本的な対応の仕方を知る。 ・ 地震や火事など緊急時に身を守ることや避難場所、連絡先等を理解する。 学校生活の様々な場面を想定した避難訓練等と関連させる。	(ア) 家族の生活と住空間との関わりや住居の基本的な機能について知る事。 ・ 我が国の座敷の住まい方、和式と洋式住居、住空間の使い方の工夫に気付く。 ・ 我が国の伝統的な住宅や住まい方に見られる様々な知恵に気付き、生活文化を継承する大切さに気付く。 ・ 布団とベッドによる就寝の形態や押し入れとクローゼットによる収納の形態の違いを知る。 ・ 住居は、心身の安らぎと健康を維持する働き、子供が育つ基盤としての働きがあることを知る。 ・ 住居には共同生活の空間、個人生活の空間などが必要であることを知る。	(ア) 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解すること。 ・ 快適な住居、生活ができるよう定期的に整理整頓、清掃など行う。	

職業・家庭（家庭分野）及び家庭

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
B 衣食住の生活	・住居の基本的な機能と快適で安全な住まい方 ・快適な住まい方・快適で安全な住まい方 思考力・判断力・表現力等	(イ) 季節の変化に合わせてた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方に気付き、工夫すること。	(イ) 季節の変化に合わせてた快適な住まい方に気付き、工夫すること。	(イ) 家族の安全や快適さを考えた住空間について考え、表現すること。	(イ) 家族の安全や快適さを考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。
		ア 身近な消費生活 買物の仕組みや必要な物の選び方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 身近な消費生活 身近な消費生活について考えることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 消費生活 消費生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 消費生活 消費生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
C 消費生活・環境	身近な消費生活・消費生活 知識及び技能	(ア) 生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、実践しようとする。	(ア) 生活に必要な物の選択や扱い方について理解し、実践すること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 商店等で品物を購入する方法や、買物かごの扱い方、支払いや釣銭などの受け取りなど買物に係る一連の手順を理解する。 ・ 家族に頼まれた買物や自分が必要とする物を正しく選ぶ。 * 校内模擬店 * 買い物学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ物でも品質や価格などに違いがあることを知る。 ・ 必要な物であるかどうかを考える。 ・ 電子マネーやプリペイドカードなど現金以外の支払い方について知り、その適切な取扱いができる。 * 買い物体験 	<ul style="list-style-type: none"> * インターネットを介した無店舗販売 * クレジットカードによる三者間契約 	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ 購入方法や支払方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性に気付くこと。 ・ 支払い時期（前払い、即時払い、後払い）の違いによる特徴を知る。 ・ クレジットカードによる三者間契約と二者間契約を比較しながら利点と問題点を知る。 ・ 生活に必要な物資・サービスについての金銭の流れを知る。 ・ 多様な支払い方法に応じた計画的な金銭管理が必要であることに気付く。 ・ 収支のバランスが崩れた場合には、物資・サービスが必要か判断し、必要なものについては、優先順位を考慮して調整することが重要であることに気付く。

職業・家庭（家庭分野）及び家庭

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
C 消費生活・環境	身近な消費生活・消費生活			<p>①売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理ができること。</p> <p>・選択のための意思決定に必要な安全性、機能、価格、環境への配慮、アフターサービス等の観点や、関連する品質表示や成分表示、各種マークを基に、広告やパンフレットなどの情報源から、隔たりなく情報を収集し、購入目的に応じた観点で適切に整理し、比較検討できる。</p> <p>・情報の信頼性を吟味できる。</p> <p>・物資・サービスの選択・購入に必要な情報の収集・整理を適切に行うことが、消費者被害を未然に防いだり、購入後の満足感を高めたりすることに気付く。</p>	<p>①売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできること。</p>
	知識及び技能				
	思考力、判断力、表現力等	<p>(イ) 生活に必要な物を選んだり、物を大切に使うことしたりすること。</p>	<p>(イ) 生活に必要な物について考えて選ぶことや、物を大切に使う工夫をすること。</p> <p>・目的に合った物の選び方を知る。</p> <p>・使用目的を理解した上で、予算内の品物を選ぶことができる。</p>	<p>(イ) 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、表現すること。</p> <p>・物資・サービスの選択、購入方法、支払い方法等について考え、表現できる。</p>	<p>(イ) 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫すること。</p>
	環境に配慮した生活	<p>イ 環境に配慮した生活 身近な生活の中で環境に配慮することに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	<p>イ 環境に配慮した生活 自分の生活と環境との関連などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p>	-	-
	知識及び技能	<p>(ア) 身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて知り、実践しようとする。</p> <p>・ごみの分別の仕方や、空き缶やペットボトルの回収の役割などを知る。 *ごみの分別学習</p>	<p>(ア) 身近な生活の中で、環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解し、実践すること。</p> <p>・エコバックを活用したりすることが、ごみを減らすことにつながることに気付く。 *エコ活動</p>	-	-
	思考力、判断力、表現力等	<p>(イ) 身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて考え、工夫すること。</p> <p>・ごみの種類や量に気付き、再利用できるものやごみを減らすことの大切さを考える。 *リサイクル工場見学</p>	<p>(イ) 身近な生活の中で、環境との関わりや環境に配慮した生活について考えて、物の使い方などを工夫すること。</p> <p>・電気の消灯や水の使用などエネルギーの無駄使いを防ぐ。</p>	-	-

職業・家庭（家庭分野）及び家庭

内容		中1段階	中2段階	高1段階	高2段階
C 消費生活・環境	消費者の基本的な権利と責任			イ 消費者の基本的な権利と責任 消費者の基本的な権利と責任に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 消費者の基本的な権利と責任 消費者の基本的な権利と責任に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	知識及び技能			(ア) 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について気付くこと。 ・消費者の基本的な権利と責任について（具体的な場面でのどのような権利と責任が関わっているのか、権利の行使には責任の遂行がともなうことに）気付く。 ・購入した物資・サービスの不具合があったり、被害にあったりした場合に、そのことについて適切に主張し行動する責任を果たすことなどが、消費者被害の拡大を防ぐことにつながることに気付く。 ・物資・サービスの購入から廃棄までの自分や家族の消費行動が、環境への負荷を軽減させたり、企業の商品の改善につながったりすることに気付く。 ・衣食住に関わる多くのものが限りある資源であり、それらを有効に活用するには、自分や家族の消費行動が環境に与える影響を自覚し、自分だけでなく多くの人が行ったり、長期にわたって続けたりすることが、環境への負荷を軽減させるために大切だと気付く。 *消費者基本法	(ア) 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。 *消費者教育の推進に関する法律（消費者教育推進法）
	思考力・判断力・表現力等			(イ) 身近な消費生活について、自立した消費者として責任ある消費行動を考え、表現すること。 ・自立した消費者として責任ある消費行動を考える。	(イ) 身近な消費生活について、自立した消費者として責任ある消費行動を考え、工夫すること。

